

変危険であったり、迷惑をかけておりますので、駐車場の設置が急務であると思ひます。しかし、これも防衛補助を仰ぐことになりまうとメニユーのこともありますので、先ほど申し上げたとおり、拡大への努力をいたす以外にはありませんので、何とぞよろしくお願いをいたします。

答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

○教育次長（須崎 進君） 自席からお許しをいただきまして、第一点

目の国際青年年に当たつての御質問に御答弁を申し上げます。

御案内のとおり、本年は、国際連合が定めた国際青年年の年でございします。政府あるいは東京都におきましては、この国際青年年の趣旨に沿つて記念事業の実施、あるいは二十一世紀を切り開く青年が積極的に社会への参加意識を深め、それぞれの立場でその役割を果たしていただくため、各種の施策の充実に努めているところでございします。

御質問をいただいております市といたしましての取り組みについてでございますが、本年の三月二十五日付で発行いたしました青少協だよりの

中で、国際青年年の趣旨及びテーマの意義、あるいは青年に対する期待等について掲載をいたしまして、市民の皆様には御理解と御協力をお願いいたしましたところでございします。

また、事業につきましては、限られた予算の中で、福生市青年団体連絡協議会に呼びかけをいたしまして、青年団体が主体となつてみずからの意思、判断、行動等により地域社会に参加していただくということ、外国人の子弟との交流会及び記念講演会等を予定しているところでございします。

なお、政府、東京都から中央での各種のイベント等の参加につきまして、青年団体への出席要請もあり、関係団体にはその都度周知をいたしまして、お願いをいたしているところでございします。

次に、青年交流基金の設置の考え方についてでございますが、二十一世紀を担う青年たちが、国際交流あるいは国際協力により相互の理解を深め、平和に貢献することは、大変意義のあることと考えております。基金の設置につきましては、二十六市の中では設置していると

いうことを特に聞いてはおりませんが、姉妹都市あるいは友好都市の提携により双方の市民が交流を深めているという立川市、青梅市等何市かあるようでございます。御提案をいただきましたことにつきまして、各関係部下との協議及び各市の状況等について十分研究、勉強してまいりたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○十九番（宮沢良一君） 自席で再質問をさせていただきます。

答弁順というが、先ほど市長さんが答弁していただきました順にいきますと、まずペンダント方式でございますが、五十七年に一般質問させていたたきました当時は、まだ都もやっておりました。したがって市長さんの答弁でも、大変国、都が強い関心を持っておられるということで、そういった状況を見ながら検討していきたいということでございますが、先ほどの答弁では、東京都もやっておられるということで、将来四千五百人からをキャッチできるようなそういう能力を東京都では整えていくというふうな大変頼もしい、一生懸命東京都はやっているということが

よくわかったわけですから、今度は市長さんは、他市の今後の経過を見ながらというふうな、その方がちょっと気になるわけで、むしろ現在の東京都の関係では、多摩地区はちょっと及ばないんじゃないかと思うわけでございます。広域行政圏の定例会が何かにつつ相談されて、多摩地区にもそういう受信をキャッチする所をつくっていただきたいとこのように東京都に強く要望していただきたいと思います。

前回、この件についてはいろいろお話し上げているので省略いたしますけれども、いずれにしてもこれがやはり何と云ってもひとり暮らしのお年寄りには、心細いわけです。命にかかわる問題でもあるし、そういうことで、このペンダント方式の受信機を設置することによって、お年寄りが大きな安心感を得られるわけです。そういうことで、市長さんも大変福祉に関しては御理解がございしますので、ぜひこれをさらに近い将来この西多摩地区にもできるような働きかけを西多摩地域の行政圏内でひとつ強力に進めていただきたいと思います。これはひと、要望いたします。

それから、お年寄りの相談一〇番でございますが、今現在高齢化社会ということで急激なテンポで進んでいるわけですから、いろいろなお年寄りの細かいニーズにこたえて、またそれに対応していくためにもやはりその一〇番というのは必要じゃないかと。先ほど答弁の中にもありましたけれども、武蔵村山で現在始めて一年ぐらになるわけですが、やっておるわけです。そういった中で大体多い問題というのが主に健康問題とか、あるいは就労、家族問題、また年金とか住宅問題ですね、こういったことがやはり、お年寄りからじかに聞けるということとです。これが一つの市の政策となって将来の高齢化社会の大きな参考になっていくんじゃないかと思うんです。

そういう面でひとつ、先ほどは何か民生協議会等に協力していただいて検討されていくようなことですが、やはり積極的に検討せられて、社会福祉協議会にでもお願いしまして、ぜひお年寄りの悩みを聞いていただきたいと思うんです。これも要望で結構です。

それから、横田基地への飛行機の乗り入れですけれども、これはやは

り、一つの時代の流れというか、大変どこでも積極的にやっていることです。私、ちょっと調べてみたんですけれども、埼玉県の浦和市では、昨年の十一月に地域航空調査研究会という委員会を設けまして、それでその結果、ついこの間ヘリポートの設置ができたということです。また、この八月にずっと、最近ばかりに新聞に続けて出ているんです。長野県では民間企業がヘリコプターに乗り、伊豆への海水浴を募集したところ、その申し込みが殺到したということです。やはり何というか、考えられないようなそういう一々、市長が採算性などという問題も出ましたけれども、案外心配いらないんじゃないかと思うわけです。また、離島民の足、コミュニティ、航空運輸省育成本腰、全国地域航空システム促進協議会ができて、参加自治体が三十四道府県と市町村を加えると九十四余りあるそうです。このようないくの間八月の東京新聞に出ていました。また、そのちよつと別ですけれども、「小型機航空に関心」と、「自治体新交通システムで国土庁が調査報告書」というような見出しで出ておりましたが、新交通機関に寄せる自治体の期

待が大きく、アンケート調査では、都道府県回答四十四の八四が「ミユニター航空に強い関心を示している」というんです。そして次にヘリコプター、デマンドバス、都市モーターの順となっているということです。今は盛んにこういったものがPRというか、ムード的に一つの潮みみたいなものです。

そういう時代ですから、先ほど市長さんのこの前の赤星議員の答弁の中で、基地の司令官とか合ったというふうなそういうお話でしたけれども、その結果は、とにかく横田基地の場合は、よその基地と違って過密であるというふうなことです。その過密だけでそういったものが拒まれてしまうということは、他の基地ではほとんど自衛隊が乗り入れあるいは民間機が乗り入れているわけですから、これはただそれだけで断られるということになるし、これは大変横田基地というのは重要なんだなと。これはよその基地よりも重要ということになると、基地対してもこれはちょっと大変重要視されているんだと。これは基地交付金なんかも相当考えていかなければならないなど、こうなっていくわけです。

その辺で、もう一遍ひとつ、本当に重要なのかと、過密なのかと。もしそういうものが、横田基地はよその基地と違うんだということになれば、私たちやはり対応の仕方を考えざるを得ないということになってくるわけです。その点もう一遍、ひとつお聞かせ願いたいと思います。

それから、前後しますけれども、いろいろなデイサービス、デイホームの事業なども、現在では他市にお願いしてやっているような状態です。いずれやはり福生の市民のことは、やはり福生市で面倒を見ていかなければならないと思います。これはやはりいすれ私たちが年をとっていくわけです。そのときになって肩身が狭いんじゃないかと思うんです。あるいは慶弔の場ですね、これも痛切に感じているんです。署名をやったくらいは大変なものです。この間も新しく建った市営住宅で亡くなったと。お通夜をするのに困って、その近くの町会の会館を借りに行った。それで、通夜じゃなあと断られたというんです。

そういうことで福生市民の皆さんは、殊に団地住まいの皆さんとかそういう方たちは、どうかひとつ福生にも羽村みたいな斎場をつくっていただ

だきたいと、ああいった大きくなっていいですよ、こういう強い声です。そういうことやら現在いろいろな面ですね、れんげ作業所なんかもう手詰りでしょう。そういういろいろな面で、やはりもう現在の福祉社会館では、いろいろな高齢化社会の老人、お年寄りに対してニーズにこたえていけないと思うんです。そうかといって、現在の福祉社会館をつぶしてしまえというんではないんです。相当お金をかけているんです。建ぺい率でとにかくためたとわかっていたんでしようか。とにかく無理だとわかっていたと思うんだけど、金を使っちゃって。またこの間、去年ですか、塗装費がとにかく大部がかかったわけです。

そういう面で、あの福祉社会館は福祉社会館で結構です。あれはあれでまた十分使っていると思うんです。とにかく現在の福祉社会館で対応できないもの、先ほど市長が決意されましたけれども、総合福祉センターですね、将来計画として八年余かかるわけですね、そういうことでやはり十年たつて——とにかく急激なすごいテンポで進んでいるわけですから。どうかひとつ、先ほど市長の言われたとおりに部

局で検討していきたいと、それで、その総合福祉センターを将来建ていくということとでございしますが、どうかなるべく早い時期に、部局で検討するのは早速やっていただくとともに、都内にもかなり立派な総合福祉センターができています。どうか担当の方は早速視察していただきまして、そして関係団体、障害者関係の団体の方たち等いろいろな団体との協議をなるべく早くやっていただいて、そして、どのぐらいの規模があったら足りるか、またどういった総合福祉センターにするかということをもひとつ早く検討されまして、福生はとにかく土地がありませんので、やはり早くしないとなかなか土地の取得も大変なことになってくるわけですから、そういう面でひとつ積極的に、なるべくスピーディーにお願いしたいと、このようにこの件は強く要望する次第でございします。

それから、国際青年年についていろいろ当局でもPR、アピール、また記念行事ですね、いろいろベースの外人さんとの交換とかいろいろ積極的にやっておられるようでございますので、そういったことでやっておられることはよくわかりました。

私の調べた主なことです。青少年ですから、これからやはり世界を中心に動いていくわけですから、やはり青少年を大きく育てていただくためにも、二、三の例を紹介申し上げます。海外研修会留学の旅費の貸し付け制度を実施している所。また、青森県の八戸市では、市独自に記念行事の一環として、十日間の日程で蘭州とか北京、こういった所を訪問し、互いの学校の生活や家庭生活、両国の歴史などをデイスカッションするとか、そういったことを中学生として親善使節団の中国派遣とこのようなことをやっております。また、都内でも墨田区などでは、国際社会で活躍できるように広い視野に立った青少年の育成が目的ということで、中学生を短期留学、経費全額負担でやっているわけです。

そういったことで、例を挙げれば切りがありませんけれども、残念なから福生の場合、すぐ外国といっても、姉妹都市がまだ結ばれていないんです。これは結ぼうと思っても結ばれるものでもないと思うんですけれども、この間福生でも、栗沢バレー教室というんですか、ちょっと名前を

忘れてしまったけれども、市民会館の横にあるんですが、そのバレー団を中国からある大学へ客員教授として招かれておる某教師が認めてぜひひとつ中国へ興業に来てもらえないかとこういう話があって、向こうでの滞在費は一切面倒を見ますけれども、こちらからの旅費は、その大卒教授いわく、恐らく自治体あるいは東京都さんでも補助をしてくれるんじゃないですかとこう言われて、それでその方が調べたところ、八王子市とか何市かそういった関係の場合は補助しているけれども、福生市では補助していないんですかとこう聞かれたわけです。東京都はまだ調べないけれども、東京都はどうなっているか聞いていただけないかと、こういうことでした。

私も早速、福生市は現在ないということと東京都へ問い合わせたところ、それをやると膨大な団体になってしまうというんです。バレー団体じゃなくてもいろいろな団体に全部補助を出さなくてはならないということ、今検討している最中だとこういうことでした。そうしているうちにそのバレー団の方から、いや実は、ついこの間一切旅費も全部持てま

しよう。もう心配しないで来てくだされと。こういうことになったということで大変喜んでおりました。

そういったことも一つは日中親善の使節団だと思います。福生から、北京なら北京へ、上海なら上海へ、上海と北京とかと言っておりましたねー行きました。それが契機で姉妹都市が結ばれるかもしやせん。そういうことで今後そういった場合、多少やはり青少年のそういう海外に行くときに補助を出せるようなそういう基金を検討していきたいということですが、もう一遍検討していただけるかどうか。

正直言って、この三月定例会で羽村はできました。記念行事で基金の一億円ぐらいですね。条例ができました。そういうことで他市におくれないように福生市もやはり国際都市としては福生は結構有名じゃないかと思うんです。そういう面からもぜひ福生市の青少年を、世界観に立ったそういう意味から、やはりぜひひとつこの基金に積極的に取り組んで、設置の条例に取り組んでいただきたいと思うんですが、この点もう一遍お聞きしたいと思うんです。

とりあえず自席からの質問はこの程度で、答弁の結果でまたお聞きしたいと思います。よろしく願います。

○市長（田村匡雄君） 自席からお許しをいただきまして御答弁申し上げます。

横田基地への民間機の乗り入れについてということの御質問でございますけれども、過密であるというような御答弁を申し上げたんでございますけれども、司令官等の話の中で、どうも横田基地は、一当基地というような言葉を使っておりましたけれども、非常に過密なんだということ、私も受けてめたわけでございますけれども、過密というのはどういうことかということ、いろいろと話の中でございすけれども、横田は御案内のように七平方キロでございますが、千歳は飛行場が十二平方キロでございます。それから三沢は十六平方キロでございます。その三沢は十六平方キロのほかに民間航空を乗り入れるというふうなことで、十一万平方メートル運輸省が買収をいたしまして、民間航空を乗り入れたというふうなことでございまして、そのように今横田は七平方キロでありまして、非常に狭いんだと

そのほかに民間航空が入るならば、ほかにやはりその用地を求めないでやらないだというような意味のことではないかというふうに思っているわけでございますけれども、自衛隊の基地にいたしましたもまた米軍の基地にいたしましたも、民間航空が入る場合には他に用地、それからそれに対する整備とかあるいは格納庫、そういうものもその施設というものを現在の基地のほかにつくらなければならぬということでございます。

そのようなことでございまして、私どもこの件については、確かに私どもが考えて、これだけの飛行場がございしますので、民間航空があったならばどこかへすぐ行けるというような非常に安易な考えというが、そのようにだれしもが思っているわけでございますけれども、そういう難しい面もございまして、最初に申し上げたとおり、この米軍基地という一つの壁がございまして、日米安全保障条約とか、地位協定とかいろいろなことによりまして、日米の安全を維持していただくというようなことでございまして、そういうことではないかというふうに思っております。基地が広ければ何とかなるのかというようなことを話したら、そうではないんだと、基地は基地で、そのほかに民間航空

が入るならば、別にやはりそういう用地を求めていくのが普通ではないかというようなことのでございまして、私どもはそのように理解しているわけでございますけれども、今後ともこの件につきましては、先ほど申し上げたように積極的にひとつ働きかけをいたします。また、議会とも一応御相談申し上げながら、この件についてはやらせていただきたいと思いますので、よろしく御理解をいただきたいと思います。

○教育次長（須崎 進君）

交流基金条例の設置の考え方ということでございますけれども、私どももこの実際にやっております二市ほどの状況を見ますと、篤志家の寄付等でやっている所が多いようでございます。

それから、お話のございましたように、羽村では実際にやっておりますというところでございまして、今後関係部課と十分研究してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○十九番（宮沢良一君）

横田基地への民間機乗り入れてございしますが、これはやはり政治的な運動をしていかなければならないと思っております。

それで、前回の答弁では許認可の問題とかいろいろ出ましたけれども、これは筑波科学博を機に五十八年五月から運輸省が不定期路線の運輸を認める等、今後旅客運輸の規制緩和が予想されているというふうなことが新聞に出ています。そういった面で、またこの三月定例会に羽村町では悩んでいるんです。横田基地に民間機を乗り入れてもらいたい、こう出ているんです。協議会を通じ西多摩地域の空港利用者の不便を解消するため、横田基地内に羽田、成田をつなぐ朝夕一便程度のジョイントフライトを設ける運動を将来に向けて起こしてはどうかと、このようみなさんが困っていて、力を合わせなければできないことをどんどん協議会に持ち込んでほしいがどうかと、それに対して答弁で、それらの役割を担うのが協議会の使命である。提言いただいた教育あるいは横田基地の件については、意を徹してやっていきたいとこのように答弁しているわけですが、でも、協議会というのは、要するに西多摩地域広域行政圏での協議会だと思っています。

これは年に定例会が何回ぐらいあるんですか。これは今回、何かその

行政圏での初めての事業が緑化推進事業ということを知っていますけれども、この予算にも載っていると思うんですが、こうやって出ているわけですから、定例会は何回あるか知らないけれども、そういったことが定例会によってはおもう既に聞いていると思うんですが、羽村町長さんから。

先ほど市長さんからの民間機乗り入れたと新たに拡張するというふうなことがありますけれども、最初は、普通の場合拡張するといったって拡張するはずがないわけですから、ヘリポートをまず設置するとか、そういった第一段階として、やはり広域圏で強力にひとつ、政治的な問題だと思ふんです。これは強力にひとつ進めていっていただきたいと思うんです。これは時期到来ですから、将来の交通システムを考えると、こういった快適な新交通システム導入にどうか乗りおくれないうに頑張っている、いただきたいと思ふんです。これは強くお願いいたします。

それから、先ほどの基金条例ですけれども、羽村で実際やっているわけですか。そういうことでひとつ何とか、できれば海外へ、何年か前海外へ

職員の皆さんが研究派遣ということもお願ひしたわけですが、殊に基地を抱えて、やはりいろいろな面で悩み多し中で、そういう中でやはり戦争はもう絶対起してはならないと、やはり平和の使節を、基地を抱えた同じ苦しみの町と提携するとか、そういうたやはりふだんのそういう気構えというか、そういう積極さというものが必要じゃないかと思うんです。ちょっと脱線するかもしれないけれども、この間西ドイツの基地でもって爆破事件が起きたわけですね。これは人ごとじゃないと思うんです。そういうときには職員が派遣できるような、あの基地はこういったことで爆破されたんだと、横田基地に対しては、こういったことをやはり未然に防いでいかなければならないというふうな、それぐらいのやはり今後行政改革、行政改革と、これは国から言われたと、とにかく自治体はしっかり頑張ってやっているんですから、そういう面では行政改革といつても、一つはやらなければならぬ問題はどんなやっていかなければならないと思うんです。そういう面で萎縮してはならないと思うんです。ぜひひとつ前向きにこの件は積極的に考えて、実施するよう検討

していただきたいと思うんです。これは要望です。それから、公営駐車場でございますけれども、これはやはり何といつても補助事業でやっていかなければならないし、メニューはないわけです。そうかといつて、法律改正しろと言ったって全然してくれない。だから、とにかく昔はいろいろメニューがないものを法律改正をやらざるを得ないような形で切り崩していったと、こういう経過もあります。そういう面で、やはりこの駐車場を、千歳におくれをとったかもしれないけれども、何とか因果関係をこじつけて、東口にわゆる遠藤さんがよく問題にしているYナンバー、何か聞きますと、この間もトラブルを起こしていたようです。トラブルを起こしたって、相手がアメリカですからわからないわけです。一一〇番、一一〇番との声が聞こえたようですけれども、そのうちに英語のできる人が行ったようですけれども、一一〇番は出たか出ないか、英語のできるような人が中に入ってどうやらおさまったやうなうわさです。だけれども、いずれやはりトラブルが起きてくると思うんです。あそこはとにかく、職員の皆さん、また市長さんの努力で、福